



昨年度にリニューアルされた「黒門通信」では毎月

生徒向け・保護者の方に向けて情報を発信していきます！

## 槻の木

校長 悴田 利行

平成元年、35年前、旧富岡高校から自分の教員人生がスタートしました。当時は、1学年6クラス、1クラス45人の中規模の典型的な男子校でした。統合を機に増設された特別教室棟と弓道場を除いては、校舎、御殿はその当時と変わっていません。中庭は、現在、槻の木やハナミズキなどが植えられ、ベンチが置かれていますが、赴任した直後はテニスコートでした。定期テスト期間中の午後には、職員同士でテニスをしたことを覚えています。その後、中庭を憩いの場にするのが決まり、旧富岡高校のシンボルでもある槻の木が中心に植えられました。槻の木とは、櫟（けやき）の古名で、成長が速く大木になるため、昔から神聖なものとして、その樹の下も聖域とみなされたようです。飛鳥寺の槻の木の下では重要な儀式や行事が行なわれたと、「日本書紀」に記されています。穏やかな日には、是非、中庭で昼食、読書、友達との歓談など、楽しんでください。ずいぶん太くなった幹を眺めながら、30年という時間の流れを実感しています。

## 令和4年度末人事異動における富高転出職員から富高生へのメッセージ

「ネクストステップをつくり出せ」

校長 関口 博士（渋川高校へ転出）

2年間お世話になりました。富岡高校での2年間は、私にとって特別なものとなりました。この2年間で皆さんに伝えてきたのは、「千里の行も足下より始まる」「随處作主」「ネクストステップ」です。これからの生活の中でも、自ら考え主体的に行動し、日々の歩を大切に目標に向けて歩いていてもらいたいと思います。富岡高校の皆さんが、こうしたことばを時に思い出しながら、富岡高校の新たなステップをつくっていつてくれることを期待しています。

「一息」

国語科 岸 芳孝（前橋青陵高校へ転出）

富岡高校には四年間お世話になりました。直近の三年間は久しぶりに担任も持たせていただいて卒業生を送り出すこともできました。最後は1年の担任で楽しく過ごさせていただきました、ありがとうございました。題の「一息」は禅の言葉です。呼吸のたびに生死を繰り返すという意味で、周りを気にしていろいろ考えても仕方ない、仕方ないことは考えない。そこから「今を精一杯生きる」という意味になるそうです。周囲を気にしてあれこれ考えるよりも、今は自分のやるべきことを精一杯やって頑張ってください。

「感謝」

地歴公民科 吉田 菜穂子（前橋女子高校へ転出）

富岡高校での4年間はとても楽しくて充実した日々でした。特に生徒の皆さんの素直さや思いやりに何度も救われました。ありがとうございました。高校生活は短いですが、何事にも前向きに取り組む多くのことを学んでください。失敗しても良いと思います。夢や目標をしっかりとって、一歩ずつ進んでいってください。

「富岡高校の皆さんへ」

地歴公民科 秋山 寛行（ご退職）

半年間という短い期間でしたが、ありがとうございました。皆さんと一緒に勉強や行事に取り組むことができたことは自分にとってかけがえのない経験になりました。高校3年間はあっという間です。ぜひ目標に向かって努力してください。たとえ失敗しても挑戦した人しか見えない景色があります。またこれから多くの経験を通して、いろいろなことを吸収し、相手の立場になって物事を考えられる人になってください。それぞれの自分の道（人生）を一歩ずつ進んでいってほしいです。

「富高生のポテンシャル」

数学科 小笠原 尚樹（藤岡中央高校へ転出）

5年間大変お世話になりました。富高に異動して初めに思ったのは「教員の指導を素直に受け止めてくれる生徒が多く、やり方次第で大きく力を伸ばしてあげることができるだろう」ということです。なので5年間、「数学の力をどこまで伸ばしてあげられるか、部活動ではどこまで大会の成績を上げられるか」を常に考えていました。皆さんには可能性を感じます。自分の限界を決めずに高い目標を達成できるように頑張ってください。

「今を生きる」

数学科 小林 裕貴（高崎高校へ転出）

男子校の富岡高校から計7年間、大変お世話になりました。7年間連続で担任を任せていただき、3回も卒業生を送り出すことができたことは、私の教員生活における貴重な経験となりました。関わった生徒たちの笑顔が今でも目に浮かびます。また、柔道部の顧問として部員たちと稽古した日々は大切な宝物です。教え子たちには一貫して「今を生きる」という言葉を伝えてきました。人生の瞬間瞬間を、力の限り精一杯全力で生きて欲しいと願っています。私も「今」を大切に母校で頑張ります。明日も笑顔で登校しよう！

「苦しいときこそ頑張れ！」

保健体育科 栃谷 則史（高崎女子高校へ転出）

富岡高校では12年間勤務して、皆さまには大変お世話になりました。また、高校時代・臨時職員の期間も含めると17年間富岡高校で過ごさせていただきました。私の人生において富岡高校は特別な場所でもありました。これからお互い環境は違いますが新たなスタートでもありますので、自分のやりたいことを精一杯全力で前だけを見て進んでください。男子ハンドボール部の選手の皆さん最後に最高の結果を出せるように苦しいときこそ頑張ってください。

「ありがとうございました」

事務 加藤 海斗（ご退職）

結婚・転居・転職こともない、退職することになりました。富岡高校で社会人生活がスタートして4年間、終わってみたらあっという間でした。生徒の皆さん、保護者の方々、職員の皆さん、今まで本当にありがとうございました。生徒の皆さん、自分の心と体を何よりも大切にして、「ありがとう」と「ごめんね」を言える人でいてください。周りの大人や友達に支えてもらいながらも、自分で考えて、自分の足でこれからの人生を歩いていってほしいと思います。応援しています。

**先生方、お世話になりました。  
新天地でのご活躍を応援しております。**